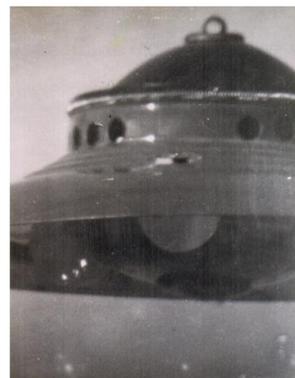


G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

エゴとは何でしょうか？ 一般的には、自我とか自己と解釈されています。アダムスキーが言っているエゴとは、利己主義に近いイメージがありますが実際は違うようです。

一般的にエゴという場合は、自分を持っていることであり自我の確立は重要なこととなります。そこからプライド（誇り）が生まれ、それ自体は問題となりません。それらを固持するあるいは、妥協しないということが問題となるようです。それも時と場合によって、超一流のスポーツマンや政治家などは、それで大成することもあります。

このように、一般的にエゴという場合は、決して悪い事ばかりではありません。しかし、エゴにしてもエゴイズムにしても、人間の心の一部を意味していて狭い範囲の状況を言っています。アダムスキーの言っているエゴとは、四つの感覚器官である視覚、聴覚、嗅覚、味覚により形成された心を指しています。この四官は、それぞれ異なる能力を有していて、共通するところがありません。従って、それぞれの器官の好き嫌いにより独立した自我を持つようになります。

つまり、それぞれの器官の好ましい事のみを求めようになり、他の器官を尊敬せず調和しようとしません。これがアダムスキーの言うエゴであり、人間の心を形成することとなります。その心（エゴ）は、頼れるのは自分だけとなって、目先のことに左右され常に不安な思いにさらされます。その結果、人間同士が対立し、戦争と破壊の繰り返しとなるのです。これでは、成長し発展するような、安定した未来を築くことはできません。

では、どうすればよいのか？ まず、このような心（エゴ）を自分は持っているのだと自覚すること。そのうえで、正道を求めていくしかありません。具体的には、アダムスキーや仏陀が伝えたように四官をコントロールするということです。そのうえで、心（エゴ）が本来頼るべき指針である「宇宙の意識」を自覚し、それに従っていくということです。

このこと、つまりエゴの自覚とそれをコントロールするということ、そして宇宙の指針を見出すことが、アダムスキーが伝えた要諦であり地球人に明示された光明であると思います。

「言葉に注目」

< それは純粋な錫(すず)であり地球上ではごく微量が知られている・・・ >

『UFOの謎』 G・アダムスキー著 中央アート出版社

これは、円盤から落とされた物質についての報告です。1953年にブラジルのカンピナスに落下して溶けた金属の話があり、それは、円盤からのものだという。「数機の円盤がその町の上空に全市民の眼前で停止していた。まん中の一機が故障しているようだった」。これと同様な事件が、ワシントン州のタコマで発生し、ここでも故障機が融解した金属を落とすという事です。数ポンドの金属が街路や歩道に落下して輝く金属に凝固してしまったという。

この金属をブラジルのある研究所とアメリカの一科学者の両方によって分析され、それが純粋な錫（マグネシウムという話もあるようです）とされているようです。これを作り出した技術が、この地球上のものではないことは明らかだと、アダムスキーは言っています。

「生命の科学」学習のポイントPart 111

今回は、レクチャー12「たえまなき進歩の報い」の『本講座の要約』です。

この前段に、確認事項のような部分があります。そこに第11講について、「あなたへやってくるもろもろの啓示は過去のあなたの一部であるのでそれを無視しないようにと警告しました。」と書いています。そして、それはきわめて重要だということです。その理由は、「人生は“はめ絵、パズルのようなもので、あなたが完全な絵を望むならばどの部分も無視できないからです。」としています。そして、人間は好き嫌いの生活をしてきているので、一部分を代用するようなことをしがちですが、これらにうち勝たなければならないと言っています。

そして、善とか悪とか興味を持たないというのは、理解力の欠乏による法則の誤用であると語ります。しかし、その過失により学ぶのであると伝えています。人間は、物事を分析する権利を持っているものの、非難してはいけないと注意します。分析に過失があったならば、素直に認めることを促しています。次に、講座についての要約となります。

第1講では、生命の分析と因を知覚すること、物事の因果関係に気づくこと、そして感知力を増すよう努力すること。第2講では、心が外界の諸現象に惑わされないこと、他の万物の働きの驚異を感知すること。第3講では、宇宙の法則が万物の中で働いていることを見ること。第4講では、万物が相互に関連し合っていることを観察すること。第5講では、英知と生命力は意識から来ること。第6講では、肉体を若返るには心を若返らせること、新しい物に関心を持つこと。第7講では、宇宙の記憶と記憶の重要性について心だけでは記憶を保てないこと。第8講では、人間の分離感知識の欠乏による。第9講では、宇宙的細胞と物欲細胞に関すること。第10講では、意識による旅行について。第11講では、宇宙空間の探険について。第12講が、本講になります。今回は、要約部分なので解釈より概要のようになりました。

宇宙に“生きる”

<名言格言編111>

“学者の取った天下なし”

学者は学問のうえでは政治や国家について理想を論じても、実際の世の中のことはよくわかっていないから、政権を握り、政治を行うことはできないという皮肉です。しかし、学者の多くは、世俗を離れた理想を語るもので、そのところは、良い点でもあると思います。



Q：国際アダムスキー普及会の狙いは？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：G・アダムスキーから伝えられた教えを正しく理解し継承すること、そして出来れば普及することにあります。また、新たな情報がない中で、アダムスキーの正当性を伝え続け、出来ればアダムスキー支持者を減らさないことにあります。これらは、なかなか困難な活動です。

書物紹介

『宇宙を超える地球人の使命と可能性』 木内鶴彦 著 KKロングセラーズ

木内氏は、3度臨死体験をしたことで知られ、その時、意識体の中で自己を失わないようにしながら様々なことを経験しました。その経験から色々な発見や発明をしています。それらが書かれていて、日本の歴史探訪を初め太古の水の開発や国際特許の太陽光発電システムなど大変な活躍です。透視の様子や意識に対する考え方など、アダムスキーの片りんを感じます。とはいえ、いくつか疑義もありますが、意識界と人間を考えるうえでは良書であると思います。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

★東京開催★ 2025年5月10日(土)、8月23日(土)、11月2日(日) 午後1時30分より台東区民会館第1会議室または特別会議室小。状況により変更があるかもしれません。

【編集後記】

毎回のことながら、多忙の中、完成してホッとしています。どうも色々な役を仰せつかり、多忙となっているのが良し悪しのようです。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第111号>

発行日 令和7年5月10日

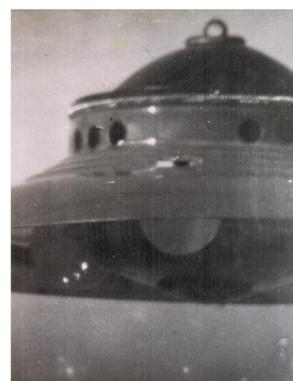
編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

私たちは、肉体が死んでも転生する部分として魂があることを知っています。アダムスキーは、魂という言葉あまり使わず、意識（宇宙の意識）と同様に伝えているようです。では、魂と意識は同じものなのでしょうか？

意識は、宇宙がいくつかあるとしても、それらの万物を創造しています。宇宙は物質界として、意識の望む姿、イメージを実現する世界として存在しているのです。その世界に宇宙の法則を存立させ規律的なものとしています。

一方の魂は、意識の分与として存在しているイメージです。意識の極小部分であっても、意識と同じであると言っても間違いないと考えられます。しかし、まったく同じと言えるのかということです。

意識は、男女含有の存在であり、魂も同様であると思われまふ。物質界では、男女が別でありその間に子供ができれば、子は両親の因子をもらいますが両親とは別ものです。何人か生まれれば、兄弟姉妹となりますが兄弟姉妹同士も父母とも別の存在です。仮に、一卵性双生児であっても同様のことが言えます。つまり、肉体も別に存在し魂も異なるということでしょう。

魂が異なるとは、同一の意識から出ながらも個性がある、意識の様々な顔と言えそうです。意識は自己分裂のように魂を創造しますが、それぞれが兄弟姉妹のように個性があり、肉体を得たのち転生を繰り返しながら、それぞれが様々な経験や学びを得、個性に合わせて変化していくように思います。

ひとつの宇宙を見た場合、そこで卒業するような魂も存在していると考えられます。それらは、意識界（原因）と宇宙（結果）をつなぐ天使のような役割を担うように思います。

いろいろ考えてみると、魂は、意識がイメージする宇宙の実現のため、肉体を通じて直接的な支援ができるように創造されているようです。つまり、言い尽くすことは困難ですが、意識と魂では根本は同一であるけれど、役割が異なるということだと思ひます。

“言葉に注目”

< こんな暗黒の中に住んでいるこの人間とは誰なのでしょう？ >

『第2惑星からの地球訪問者』 G・アダムスキー著 中央アート出版社

これは、本書における土星のマスターの言葉です。この前段で、「人間は・・・調和を破壊・・・隣人にたいして敵意をもって生活し、心は混乱して分裂しました。まだ平和を知りませんし、真の美を見ていません・・・人間はまだ地獄に落ちた魂として生きています。」と語っています。そして、表題の言葉の次に、「それは「不滅なる者」に奉仕しなかつた救われざる者です！」と語っています。地球人をこれほど手厳しく、かつ正確に表現できる人はいないでしょう。これは、まさしく多くの地球人の現状であると思ひます。このため地球上では、魂は継続するが記憶のリセットが起こるのです。地球人は、生きるべき指針に気づかず、意味のないことにエネルギーを使っているのです。将来への希望はあるものの、この現状認識は大切なところではあります。

「生命の科学」学習のポイントPart112

今回は、レクチャー12「たえまなき進歩の報い」の『この講座を毎日読むことが大切』です。

本文に入る前に、前回触れた要約の最後のところで、「スペースブラザーズは読者の多くがこの講座を通じて十分に発達し、研究グループを組織することを望んでいます。」とあり、「そうすれば、あなたは“自我”を理解するのに自分ばかりでなく他人をも援助する・・・われわれはさらに良き社会を持つ・・・。」と書いています。これが動機となり、かつてのアダムスキー支持団体や、当会など複数の会が「生命の科学学習会」等を行っているわけです。

そして今回では、次のように書いています。「一日一講座の少なくとも一ページを読み直して、その中に述べてある事柄を思い浮かべながらその日を過ごすのは賢明です。そうすればいつのまにか多くを身につけている自分に驚くでしょう。」

実際そのようにしている、という人もいることでしょう。自分の経験では、そこまでではないものの「生命の科学」に触れる機会を増やし、文章の意味を深く掘り下げ感じることで、現実社会における様々な事象を理解することができた実感しています。

続いて、本講座は、人生の道標になること、緩慢な進歩に失望してはいけないことが書かれています。そして、「あなたの“真の実体”という真珠を得るためにはうんと掘り続ける必要があります。」と言って、これを勇気と決心と忍耐で行えば、永遠の祝福という報いをもたらすと書いています。

人間に必要なのは“真理”です。人間の欲が入ったものや地球だけに役立つ知識は、宇宙的にほとんど意味を持ちません。時代を超え、全宇宙に通じるものが真理です。「生命の科学」は、その真髄を理解することで、この世界で様々な真理を見出すことができます。これを実感できるほどに学んでいく必要があると感じています。

宇宙に“生きる”

<名言格言編112>

“年寄りの物忘れ若い者の無分別”

一般に老人は物忘れがひどく、若い人は経験が少ないことから物事をわきまえないという欠点があるということです。もちろんこれに該当しない場合もありますが、このような傾向があることから言われているようです。



Q：最近、地球の地軸が傾くとの話がありますが？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：これは、アダムスキーが初めて知らせたことであると思います。「第2惑星からの地球訪問者」のなかで、オーソンが必ず起こると語っています。しかし、これとは別の異星人からの情報として語られているようです。これらが事実としても、まだ少し猶予があると考えています。

書物紹介

『世界のニュースを日本人は何も知らない6』 谷本 真由美 著 (株)ワニブックス

著者の谷本さんは、元国連専門機関の職員です。日本をはじめイギリス、アメリカ、イタリアなどでの就労経験があり、それを背景に最新ニュースについて独自の解説をしています。仕事に対するスタンスは、日本人と他国の人々とは、大きな違いがあることがわかります。また、様々な事件等の背後について、日本ではあまり報道されないことにも忖度なく解説を加えています。本書は、同タイトルの6冊目ですが、どれも同様に勉強になるものと思われる。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

★東京開催★ 2025年8月23日(土)、11月2日(日)、2026年2月23日(月・祝)、午後1時30分より台東区民会館第1会議室または特別会議室小。

【編集後記】

今回は、やることが多く先手先手で様々なことを進めてきました。その結果、余裕はないものの、あたふたせず完成できてよかったです。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第112号>

発行日 令和7年7月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町1-3000-1

発行責任 渡邊克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

アダムスキーより伝えられたスペースピープルの言葉の中で、原子爆弾に関するものがあります。アダムスキーが初めてコンタクトしたオーソンをはじめ、母船における金星のマスターも原子爆弾について語っています。

いずれも爆発による破壊ばかりでなく、その後の放射能による汚染により生存が危ぶまれると伝えていました。日本は、それを体験した唯一の国であり、その悲惨さや放射能による人体等への悪影響についても身をもって知っています。放射能については、東日本大震災によっても、大きな被害を被っています。

原子爆弾については、ロシアや中国をはじめとして、日本を標的とするICBM（大陸間弾道弾）が存在していることを知らされています。この段階で日本は、常に脅かされているのです。

しかし、スペースピープルは、こうなる以前に彼らの宇宙技術と交換に核兵器の廃止を地球に迫ったとみられます。

今日のアメリカをはじめとする動きを見ると、どうやら地球は、それを拒否し、彼らを地球人の自由を拘束する危険な存在として認識しているようです。

核兵器の危険性は、それだけではないことを最近気づきました。宇宙は、宇宙の意識（意識）により創造されましたが、それを実現したのは元素であるということです。そしてこの元素は、意識の指示に忠実に従うということです。

これは、宇宙が生きた体だとすると、元素は、それを構成する細胞であるということです。つまり、原子核の分裂を原理とする爆弾は、生きた細胞を分裂させ死滅させていることとなります。

これは、肉体を傷つける行為と同様であり、聖なる因子を破壊する行為になるものだと思います。このように宇宙を病気に導くような行為は、許されないというのがスペースピープルの言なのだと思われま。しかもこの元素は、人間の想いにも従うのです。これらを是とすることが、パラダイムシフトとなって、今後の地球の科学になるのではないかと考えています。

“言葉に注目”

< それは常に肉体というホームを通じて活動しているのです >

『宇宙の法則』 G・アダムスキー著 中央アート出版社

これは、「霊」とはいったい何なのか？ と、アダムスキーが自ら発し、これに対して語ったものです。そして、次のように説明しています。テレビを例にあげ、そこで出演している人々について、「彼らは決して死んでいません！ このことは、心霊主義の全分野と、皆さんが先ほど触れた他のあらゆることの意味を含んでいます」。つまり、霊というのは、生きている人が発しているということです。そして、「皆さんが行うべきことは、テレビのスイッチを入れて局を選択することだけです」。高周波に乗せて映像が送られているので、その周波数に自分を合わせれば、テレビなどなくても映像を見ることができると言っています。また、自己と同じ思考の波動を受け取るとも言います。ここで霊とは、意識の一部として語っているようです。

「生命の科学」学習のポイントPart113

今回は、レクチャー12「たえまなき進歩の報い」の『再び宇宙の意識とは』です。

実は、前回の最後に「あなたの心の中にひそむ意識を信じなさい。そうすればあなたはこれまでずっと別れていた“宇宙的自我”とともに一体となって歩むことになるでしょう。」と書いています。そして、ここで改めて“宇宙の意識”について書いているものです。

その初めに、「宇宙の意識とは、水流を上方に噴き出して次にそれを無数の小さな水滴にしてあらゆる方向に落とし、再びプールの中の水と一体化せしめる噴水のようなものです。」と書いています。この説明は、魂が地上へ出現するときのイメージを想起させます。宇宙の意識の分与として無数の魂が地上へ放出され、それぞれが人生を全うして意識界へ帰るといった感じです。

アダムスキーは、噴水の水滴がプールの水と「一体化するとき、その実態の奥に含まれている知識はいつでもたたいて引き出せます。」と書いています。そして、「人間は、飛んでいる鳥の喜びをともにすることができますし、宇宙の秩序整然たる有様に感嘆することもできます。そして・・・人間はしだいに謙虚になり。自己がこのように完全な“計画”の一部であることに感謝するようになります。」と書いています。

まさにその通りであると思います。しかし、ここで、確認しておきたいことは、“意識”を自覚するという問題です。自分が四官によって、外界を識別できる機能を持っていること。そして、その活用の結果を認識できること。そこが重要なところ。この“認識できる”本体こそ、自己であり“生きている”という証です。この自覚こそ“意識的意識”であり、個人のものではなく“宇宙の意識”と同じ“意識”であると自覚する必要があります。

最後に、「知覚力が身につくと生命が理解され、あらゆる現象は“因なる意識”の表現とみなされる・・・」。それが習慣となるまで、忍耐強く探求することを促しています。

宇宙に“生きる”

<名言格言編113>

“ 惻隱の心は仁の端なり（そくいんのころは じんのたんなり） ”

これは中国の思想家孟子の言葉で、人の不幸を哀れみ、痛ましく思う心が仁の糸口となるということです。惻隱という言葉は、ほとんど使われませんが、哀れみという意味で、哀れみという言葉自体、あまり使われなくなりました。しかし、この意味する心の在り方は重要です。



Q：核の平和利用もダメなのか？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：原子力発電は、核分裂をゆっくり起こして、そのエネルギーを利用するものです。しかし、放射性廃棄物の処理問題が解決できていません。これをどうにかしたとしても、今回の冒頭語に書いたように、宇宙の細胞を破壊している行為になることから良くないと考えます。

書物紹介

『狂った世界』 百田尚樹 著（株）新潮社

著者の百田尚樹（ひゃくた なおき）さんは、「永遠の0」や「海賊とよばれた男」などの著書、後に映画などで知られた作家です。現在は、日本保守党の共同代表の一人でもあります。本書は、百田氏のメルマガ「ニュースに一言」から再編成されたものです。現在社会の出来事を“狂っている”との視点で書かれています。ユーモアがあり、常識的で大方納得のできるものです。しかし、党首としての東京15区補選での行動には、多くの疑義が呈されています。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2025年11月2日（日）、2026年2月23日（月・祝）、2026年5月23日（土）
午後1時30分より、台東区民会館第1会議室または特別会議室小。

【編集後記】

今回も、発行日について、うっかりしそうでした。自治会事業やお盆などもあり、何かと忙しかったのです。しかし、良かったです。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第113号>

発行日 令和7年9月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）